

会 員 通 信・News and comments

学名をめぐる参考書

学名の正しい記載には、国際動物命名規約を正しく理解することと、ラテン語の文法に精通することが不可欠であるが、この両者とも我々にとって難しい課題である。

学名に関する「読物」としては、動物全般なら最近では小森 厚、「どうぶつ学名散策」、東京書籍、¥1,000があり、魚の学名については久保田勝馬、「学名おもしろゼミナール」、アクアライフ 1983年5月号から15回連載、などがある。学名の背景を知ろうとする人にはよい読物である。しかし、これらはどうすれば正しい学名の記載が出来るかという疑問には答えてくれない。

国内で刊行された書籍で、動物の学名形成に最も有用な本は、平嶋義宏、「蝶の学名」第2版、九州大学出版会、pp. 269, ¥3,400と思われる。表題が示すとおり、蝶に主力が置かれてはいるものの、動物の命名一般に関する解説があり、私見では現在最も有用な書籍である。

他方洋書では、有名な E.D. Jaeger, A source-book of biological names and terms, C.C. Thomas Publ., USA, pp. 324, 約 ¥4,000 (時価)、更に O.E. Nybakken, Greek and Latin in scientific terminology, Iowa State Univ. Press, pp. 321, (価格忘失) が挙げられよう。特に私が薦めたいのは、R. W. Brown, Composition of scientific words, Smithsonian Inst. Press, pp. 882, 約 ¥6,000 (時価) であり、この本は「こういう表現はどうしたらよいか」という要望に応じてくれる唯一の本であると言ってもよいと思う。新種を記載しようとする人にとっては、ある種小名がどういう意味と経過をたどったかは全く必要なく、正しく表現するにはどう表記すればよいかの参考書がほしいのである。本書はある程度この問いに答えてくれる。

学名の基礎はラテン語であり、ラテン語の文法は欠かせない。松平千秋・国原吉之助、「新ラテン語文法」第4版、南江堂、pp. 480, ¥2,600 が手軽で解り易い文法書と思われる。辞典では、田中秀央編、「羅和辞典」、研究社、pp. 729, ¥3,000 が利用し易いが、語彙が全く不足しており、希和辞典については目下のところ見あたらぬといつてよい。Oxford 等で出版されている、

羅・英、希・英の辞典を利用せざるを得ない。

辞典の使い方の要点を略述する。命名には名詞と形容詞とが、主に関係する。名詞には性があり、m (男性)、f (女性)、n (中性) のどれかが示されているので名詞であると判る。形容詞には adj. と記されている。

名詞では主格と属格が命名に関与する。辞典の見出語が主格 (単数) である (ただし、複数形もある)。辞典では通常「見出語」「属格の語尾」「性」の順に記されている。科名を形成する場合には、属名の語幹を属格から発見しなければならない。ギリシャ語起源の単語の属格には注意が必要である。辞典には、属格が一般に主格の次に記されている。例えば、batis の属格形として idos が記されており属格が batidos であることが判る。これから属格の格語尾 -os を除いた batid- が語幹である。したがって属名 Batis から科名を造る場合には Batididae となる。ただし、ギリシャ文字で表記されているので、ラテン文字への適切な換字が必要である。

ラテン語の形容詞には、変化するものでは、2通りの変化がある。修飾する名詞の性に合わせて語尾が変化し、男性、女性、中性が各々異なるものと、男・女性と同じで、中性が異なるものの2通りである。辞典の見出語は男性形である。3つに変化する形容詞であれば、女性語尾と中性語尾の順に各々記されている。男・女同形のものでは中性の語尾のみが記されている。これでその形容詞の語尾の変化が判る。辞典中には、例えば「西方」を意味する occidentalis は occidentalis, e, adj. と記されており、男・女性形が occidentalis であり中性が occidentale であると判る。一方、「赤」を意味する ruber では ruber, -bra, -brum, adj. と記されており、各々男性・女性・中性の語尾を示している。これ以上の詳しい内容については上記の書籍を参照されたい。

国際動物命名規約については、和訳の作業が進行しており、いずれ刊行されるものと思われる。規約を遵守するのは当然であるが、我々日本人にとっては全く縁遠いラテン語やギリシャ語の文法や用法を知ることなく正しい学名の記載は不可能である。前述の書籍を学名の正しい記載に利用していただきたい。

(清水 長 Takeshi Shimizu)